

ふれあいネットワーク



社協

# まつもと

発行 社会福祉法人 松本市社会福祉協議会 電話 27-2000  
編集 社協まつもと編集委員会 FAX 27-2239  
E-mail:syakyoum@avis.ne.jp http://www.avis.ne.jp/~syakyoum/



## 手を取りあつて前進

## 合併で安心の地域づくり

絵は手塚義雄さん(元岡田小教諭)

- ・災害から学んだ地域福祉…2P
- ・中越地震での支援活動……4P
- ・スペシャルオリンピックス…5P
- ・在宅介護支援センター……6P
- ・チャレンジ町会福祉……7P
- ・ふくしかわらばん……8P

ふるさとが大きく生まれ変わる年です。  
松本市と四賀村、安曇村、奈川村、梓川村が「松本市」に。社会福祉協議会も一本化します。共通の願いは「安心の地域づくり」です。  
昨年、全国各地で起きた災害は、日頃の身近な地域づくりがどんなに大切かを教えてくれました。松本で進めてきた「町会福祉」が福寿草の四賀で、安曇のミスバシヨウで、ゴテンザクラの奈川で、梓川のコマチソウで、きつと花開いていくでしょう。

(松本の市花はレンゲツツシ)

平成17年 No.163

# 1月15日号

# 災害から学んだ地域福祉

## ボランティア参加者座談会



昨年の新潟県中越地震に際して松本市民の温かな支援の輪が広がりました。

今回の座談会は災害ボランティアとして現地で活動された人たちが、体験されたこと、学んだことを今後の松本市の地域福祉に活かしていく目的で開催いたしました。

(敬称略)

**司会** 災害ボランティアの体験を、今後の地域づくりに活かすため、皆さんの意見や感想を聞かせてください。

### 物資配布に混乱も

**赤羽** 災害の様子をテレビで見ても、自分にも何かできないかと思いい、年金生活者で年齢的に心配もありましたが、今回のボランティアに参加しました。

十日町市の一人暮らしのおばあさんの家に片付けに行きましたが、外見はなんともなくても中に入ると凄いいことになっていました。

**山崎** 私は約40日間、十日町市の災害ボランティアセンターの物資班として活動しました。

当初はマニュアルも何もないスタートで、物資が運ばれてもまだ避難勧告中だったこともあり市役所も混乱していました。センターに不足した物資を市役所に取りに行き、「避難所に配りたい」と言っても、「避難所には我々が配っている」と返されて

しまい、また個人で取りに来た人も「避難所へ取りに行くように」と言われていました。

### 地域福祉を実感

**清水** 十日町市では高齢者の世帯で障子張りをしました。障子紙がL字型に裂け、枠も外れずやつと張り直しても今度は敷居にはめられない。いつまた余震がくるか分からないと思うと片付ける気にもならない。でも、障子を張り直すだけでも明るい気分になると話されていました。

**丸山** 被災された方のお話では座っていたところ震動で体が5〜6センチ浮いたと思ったら、次に横揺れがきたのでとても立っていられた。今まで聞いていることが役に立たなかったそうです。

でも地域で助け合ったときが一番良かったとも聞きました。災害があったときに、初めて隣近所の地域福祉が役に立つのだと感じました。

**赤羽** 私が行った家は、おばあ

## 地域の助け合いこそが大事



さんの一人暮らしで、二階には息子さんの写真や本があり、失礼かとは思いましたが、「なぜ息子さんは手伝いに来ないのか」と尋ねると、その方は弱視の障害者とのことでした。自分も一人暮らしですが、隣組の大切さを感じました。

**伊藤** 川口町ではテレビで見ると家は倒壊し道路も崩落。雪が降る前に何とかしたいと、瓦の撤去をしました。

**司会** お手伝いをしながら、被災者と何か話をされましたか。

**伊藤** 明るく振舞っていました。やはり雪の心配をしていますが、積もる前に片付けて早く落ち着きたいと言っていました。

**司会** 県民性なのか、知らない人が入ってくると警戒してしまい、他人に迷惑をかけたくない

という心理が働くのでしょうか。

**丸山** ボランティアに来た人へ「お世話になりました。でも後は自分たちでやるからいい」と皆さん言います。受け入れられていないのかなと思いました。

「私たちよりもっとひどい方がいるから、そちらへ行ってください」と言うので、少し閉鎖的なのかなとは感じました。

### ニーズをつかむこと

**清水** 私が一番感じたのは、物資はあってもニーズに対する的確な提供は難しいということでした。

**司会** 活動のキーワードは「ニーズに合っているのか」でしょうか。

**山崎** 十日町市では「ふれあい隊」というのができました。全地区を回って一軒一軒声をかけ、そこで手伝うことがあればその場で手伝い、それができない場合はニーズとして持ち帰って後日活動しました。

**丸山** ボランティア活動をするためには、市なり社協の職員なり、その地域を知っている人たちに指示してもらわないと、まるで分かりません。

日頃からボランティア組織を作っておくと良いと思います。肩書きのある人は他に仕事があ

ると思うので、地域の人たちが組織を作って勉強すれば役に立つと思います。

**山崎** 十日町市には地図班というのがある、まず地元の高校生が基礎を作り、それから地域の人が入ってききました。

### 頼もしい若者の力

**司会** 信大や松本短大など、若い人の力はすごいなと感じましたが。

**伊藤** 周りの学生にも声をかけましたが、授業を休まなければならぬということに抵抗もあって、そこが学生にとつての壁になりました。

自分は先生に相談してから参加しました。

**司会** もし松本で災害が起こったら何が必要だと思いますか。

**清水** ボランティアセンターの中に地元の人が入ったシステムがあると良いと思います。

**伊藤** 行政からは被災地出身の学生へ援助をして欲しいです。

**山崎** 最初は市役所に行っても相手にされませんでした、何回も通うことによって距離が縮まったと感じました。

**司会** 行政と災害ボランティアセンターと避難所がうまくつながっていないとバラバラになってしまうですね。



**山崎** 松本ではその辺をどのようにしたら良いのか、今から考えても遅くはないと思います。物資の受け入れも、市の災害対策本部で受け付けて、ボランティアセンターのスタッフが運ぶようにしたいらいいと思います。

**司会** 義援金についてはどうでしょうか。

**清水** 義援金はどのように使っていますか。私たちは被災者に直接配られる感覚で募金していましたが……

**赤羽** 目に見える形で、どこにどのように使われているのかが分かりません。

**丸山** その義援金も、ある程度の収入があると家が全壊していてももらえないのはおかしい。被災者の中にはローンと重なっ

## 日頃のネットワークづくりを

ている人もいるので、補助のあり方も考えるべきだと思います。

### 大切な個別ケア

**伊藤** お金も大事だが、家族のつながり、気持ちのつながりが大切。高齢者や一人暮らしの人を個別にケアできることが一番いいと思う。

**赤羽** 十日町市ではお金のことも含めて、話し相手がいることがお年寄りの心のケアとなっていました。

お年寄りと話をするグループがあってもいいのではないのでしょうか。

### 垣根を越えよう

**司会** 信頼関係がないと他人の家には入ってはいけませんね。報道が少なくなると関心も薄れがちですが、今後はどうしていけば良いでしょうか。

**山崎** 震災直後は励ましの手紙が来ていましたが、これからも続けていくことが必要ですね。

**丸山** 松本の地域性も閉鎖的なので、他人を受け入れるのはなかなか難しい気がします。

**山崎** ボランティアが地域に入るためには町会長や隣組長、民生委員から切り出して欲しい。

**清水** 日本人全体がまだボランティア慣れしていませんよね。

する方も受ける方にもマナーがあると思います。まずは参加することが慣れることへの一つの方法だと思っています。

**伊藤** 慣れていないせいか、まだボランティア活動は敷居が高いことだと思われています。

**丸山** ボランティアをしたいのに、何をしたいのか分からない。その一歩が踏み出せたらと思います。

**司会** 松本の市民はボランティア活動に対して温かいと感じました。

行政・市民・ボランティアの垣根を越えて日常的につながっていくことが大切なのだと思います。

市社協では皆さんの意見を参考に、生きた災害対策マニュアルづくりを目指していきたいと考えています。



## 座談会出席者

運転ボランティア  
赤羽 弘康

カルチャーセンター講師  
清水 里絵

フリー  
山崎 博之

短大生  
伊藤 健

編集委員  
丸山 年子

司会（社協）  
山本 雄二

## 社協の災害ボランティア派遣状況

日時	支援内容	人数
10/27~12/4	十日町市ボランティアセンターで一般ボランティアのコーディネーターとして活動	1名
10/27~29	看護師資格を持ったボランティアが十日町市の避難所で高齢者の世話等を実施	3名
10/29	松本市飲食店組合から提供のあった、おにぎり1300個を社協職員が十日町市に届け、味噌汁の炊き出しを実施(7名) 松本でおにぎりを作った方(23名)	30名
11/1~4	長岡市へ炊き出し、何でも雑巾隊 4日間で延べ3550食をつくる	延べ44名
11/2~3	市民より提供のあったジャガイモ30kg、白菜10玉、ネギ10kg、大根30kgを長岡市へ届け、味噌汁の炊き出しを実施	3名
11/10	登録ボランティアを十日町市へ派遣(第1次) ※人数に市職員1名、社協職員5名を含む 現地ボランティアセンターの指示により、被災者家屋の片付けやゴミ出しを実施	11名
11/11	登録ボランティアを十日町市へ派遣(第2次) ※人数に社協職員5名を含む 現地ボランティアセンターの指示により、被災者家屋の片付けやゴミ出しを実施	13名
11/13~14	ボランティアが川口町で炊き出しを実施	4名
11/13~14	社協職員を川口町ボランティアセンターへ派遣 ボランティア受付名簿や義援金の受付等、センターの事務補助に従事	1名
11/16~18	登録ボランティアを長岡市ボランティアセンターへ派遣 避難所での精神的ケアを担当	2名
11/18~19	登録ボランティアを川口町ボランティアセンターへ派遣 ※緊急派遣職員3名 避難勧告解除後の家屋の片付け、物資の仕分け、子どもの遊び相手などを実施	30名
12/5~8	ボランティアが長岡市へ	1名
		計143名

災害義援金は松本市、松本市町会連合会、松本市社会福祉協議会が共同して呼びかけ、多くの市民から多大なご支援をいただきました。ご協力ありがとうございました。

### ◎物資支援者

松本飲食店組合、上條美会、中島きみ子、丸正味噌

### ◎災害義援金寄付者(市社協・日赤松本市地区受付分)

征矢平、田島伊織、松田鈴子、島立地区ボランティア連絡協議会、民生児童委員協議会児童福祉部会、嶋田文雄、片山幸子、古畑修、伊藤明、甲信商事(株)社員一同、甲信商事(株)代表取締役小林登行、柳原俊幸、田口六郎、新潟県中越地震救援の会、児童館・児童センター職員一同、日赤奉仕団鎌田分団、日赤奉仕団第二分団、日赤奉仕団島立分団、日赤奉仕団本郷分団・本郷婦人会、木島千寿子、童謡唱歌南部すみれ会、第一高校音楽部「命」のうた事務局、チャリティーコンサート実行委員会、今井地区福祉ひろば、寿台1丁目町会、ひだまりの里、日赤奉仕団芳川分団、日赤奉仕団里山辺分団、社協まつもと編集委員一同、匿名4件(敬称略・順不同)

平成16年12月27日現在 寄付金額合計1,012,337円

昨年発生した新潟県中越地震の災害に際して、松本市社会福祉協議会では十月二十六日から災害ボランティアの窓口を開設し、ボランティア志望者の受付、現地との調整、人員派遣、義援物資や義援金の受付と送付などを行いました。

ボランティアの派遣は、十日町市・川口町・長岡市を中心に143名の方に、炊き出し、家屋の片付け、ゴミ出し、物資の仕分け、子どもの世話、ボランティアコーディネートなどの多彩なご協力をいただきました。

市民の皆さんに心から感謝を申し上げるとともに、今後のまちづくりや災害に備える教訓とさせていただきます。

## 「災害ボランティア 私の提言」募集

地震や風水害による災害に備えるボランティア活動のあり方や、いざ災害が発生した場合の活動のあり方について提言を募集します。

ご応募いただいた提言は、今後の災害ボランティアアマニユアルづくりに活用させていただきます。

◆受付期間 2月20日(日)まで

◆用紙 A4判2枚程度

◆応募先 〒390-0833

松本市双葉4-16 TEL27-3381

松本市社会福祉協議会ボランティアセンター



松本第一高校音楽部・吹奏楽部チャリティーコンサート実行委員会から災害義援金20万円と、CD「命―電池が切れるまで」100枚を寄付していただきました。

# 2005年スペシャルオリンピックス

## 冬季世界大会・長野

“Let's Celebrate Together!”

皆で集い、共に楽しもう



### 特集

#### スペシャルオリンピックス (SO) にご存知ですか

知的発達障害のある人たちの自立と社会参加を目指し、日常的にスポーツトレーニングとその成果を発表する競技会を提供する国際的なスポーツ組織です。

#### SOの歩み

1963年に故ケネディ大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバー夫人が、自宅の庭を開放してデイキャンプを開いたことが始まりです。

知的発達障害があるため、一度も泳いだり走ったり、雪や氷の上を滑ったことがない人たちに、その機会を提供することが彼女の願いでした。

#### 第8回冬季世界大会が長野県下で開催されます

・期間 2月26日(土)～3月5日(土) 8日間

・参加国・地域 約80カ国

・参加人員 アスリート(選手) 2500人、コーチ650人 合計3150人

・競技種目及び会場 ・アルペンスキー(山ノ内町)・クロスカントリ―(白馬村)・スノーボード(牟礼村)・スノーシューイング(野沢温泉村)・スピードスケート、フィギュアスケート、フ

#### ロアホッケー(長野市)

※アジアで初めての世界大会です。オリンピック、パラリンピックに次いでスペシャルオリンピックスと、三つのオリンピックが長野県下で行われる世界的に意義ある大会です。

・競技会の特徴 競技能力の違うアスリートを年齢、性別、競技の達成度に応じてクラス分けをし、同程度のレベルで競い合います。

出場したアスリートは全員が決勝に進み、最後まで競技をやり終えた一人ひとりの健闘を称え、全員が表彰されます。

#### 大会に先立ち、松本市内の二つのイベントにご参加を

##### ①聖火リレー

◎統火式(アテネで採火された



聖火と、啓発のために国内を走った聖火をひとつにする式です)

・日時 2月19日(土) 午後5時30分～6時30分

・会場 松本城

◎出発式(長野県下を南北二つのルートに分けて長野市の競技会場までリレーするための分火式です)

・日時 2月20日(日)午前9時30分～10時5分

・会場 松本城

##### ②ホストタウンプログラム

大会直前にアメリカ選手団を受け入れ、ホームステイをしながら、市民と交流を行います。

◎受け入れ人員 スピードスケート、フロアホッケーに参加する選手団82名(アスリート61名、コーチ等21名)

◎ホストファミリー 35の家庭が各2～3名を受け入れる準備を進めています。

★このイベントに大勢の方が、ホストファミリー、ボランティアとして参加しています。参加の動機や抱負をお聞きしました。☆ホストファミリーとして

・選手との交流を通して、子供が障害について理解してくれたらうれしい。  
・長野パラリンピックでお世話になったので、今度は受け入れ

#### 選手団の日程(予定)

2月22日(火)	夕方 午前	アメリカ選手団到着 トレーニング	サンピア松本へ宿泊
2月23日(水)	午後	サンピア松本で昼食及び歓迎交流会(太鼓演奏・もちつき等)	
	夕方 午前	ホームステイ トレーニング	
2月24日(木)	午後	あがたの森文化会館で昼食及び交流会(源池小学校や作業所・施設の仲間と)	
	夕方 午前	ホームステイ 松本城の観光	
2月25日(金)	午前	松本城の観光	
	午後	昼食後に選手団の見送り	

る側として、子供とともに楽しみたい。

☆ボランティアとして  
・持っている特技(英語力)を役立てられたら幸せ。

選手の方には、大いに楽しんでいただき、日本の良い印象を持って、帰ってほしい。

みなさんのご理解・ご協力をお願いいたします。

▼問い合わせ先  
「スペシャルオリンピックス支援松本実行委員会」事務局

松本市社会福祉協議会  
〒251-3133

# 在宅介護支援センターは地域の福祉よろず相談所です

在宅介護支援センターは3つの柱を中心に活動しています。

## 1. 総合相談



社会福祉協議会が受託している在宅介護支援センターは福祉ひろばに併設されている地域の皆様の身近な相談窓口です。

在宅介護支援センターでは、不安や戸惑いを受け止めることで、大切な人を自分で介護したいというご家族の気持ちを応援しています。

また、福祉サービスの利用方法や、どんなサービスを利用するのがいいのか等について具体的な調整をします。お気軽にご相談ください。

## 2. 支援を必要とする方の発見や支援（実態把握）

支援が必要だと思われるのにサービスの情報を知らなかったり、周囲が気がつかずに状態が悪化してしまった等、痴呆の症状が進んでしまう方を、なるべく早いうちに発見しサービスにつなげます。

また、痴呆になりかけた方への働きかけにより、重度になるのを防ぐことができます。

そのためにも、地区の民生児童委員さんや相談協力員さん、地区の皆さんと連携を取り合っています。

## 介護110番

サンキューイイロウゴ  
☎39-1165

夜間や土日・祝日など休日も24時間安心の対応をしています

☎25-3895

でもつながります

## 3. 介護予防に関する取り組み

自分らしく生きがいを持った生活を送っていただけるように、なるべく要介護状態にならないための活動として、転倒予防や痴呆予防の大切さについてお知らせしたり、教室を開催したりしています。



介護用品の展示

「介護者の集い」を開催しています(8面へ)



## 介護経験からのワンポイントアドバイス

- ・ できることはやってもらおう
- ・ なんでも話せる友人を持とう
- ・ 無理をせず、気長な気持ちで
- ・ 介護者のストレス解消が大事

## 社協が受託する在宅介護支援センター

松本南在宅介護支援センター	☎25-3895
松本第三在宅介護支援センター（第二・第三）	☎32-8265
松本庄内在宅介護支援センター（庄内・松南）	☎27-8165
松本島内在宅介護支援センター（島内・島立）	☎47-5865
松本岡田在宅介護支援センター（岡田・安原・城北）	☎45-5365
松本笹賀在宅介護支援センター（笹賀・神林・今井）	☎86-3865
松本在宅和田介護支援センター（和田・新村・芳川）	☎40-4165

上記以外の地区は市・介護課(☎34-3214)までお問い合わせください

# チャレンジ町会福祉

—うちの町ではいま—

## 町づくりは

### 仲良しづくり

#### 安原地区・中ノ丁町会

安原地区のほぼ中央部に、小さな町会が三つあります。中ノ丁町会はその真ん中の通り一本で、総戸数六十戸、町会会員は三十三戸のこぢんまりとした、まとまりのよい町会です。

壮年層が厚く、現在のところ町づくりはお互いの仲良しづくりを念頭に、町会福祉の活動を進めています。

中ノ丁町会としての単独活動の他に、天白区（当町会と近隣三町会）及び安原地区と三重の福祉活動で親交を深めて楽しみ、お互いに良き隣人として生活できるよう取り組んでいます。

さて、そのうちの当町会の一例として、日帰り親睦旅行について記します。

以前より年一回、初夏に実施していましたが、今年は二回（年度末の来春にもう一回を予定）実施します。

特に今年からは親睦目的と併せて、健康づくりの目的としてスポーツレクリエーションとマレットゴルフを楽しむことにしました。皆さんには好評のようです。

今後は、核家族化・高齢化



親睦会にて

が一層増大する中で、今から健康づくりへの誘引と、困ったときの隣人頼りが、お互い気軽にできるよう基礎づくり

に努力したいと考えています。一方、安原地区福祉計画とも対応して、予見される福祉ニーズへの取り組みも積極的に進めなければならぬとも

考えています。関係者の皆さんのご指導・援助に感謝しこ

れからもご支援をお願い申し上げます。

（町会長 大出俊次）

## 「いざ」といつの時

### 役に立つ町会福祉を

#### 島立地区・北栗町会

新潟県中越地震発生による報道は、我々に多くの教訓を与え、進むべき道筋を示してくれたような気がします。「他人事ではない」「明日は我が身」この思いを今、住民は強く感じています。

平成十三年に発足した当町会の福祉部、平成三年頃三人で始まったボランティア部会（現在十九名）、民生児童委員会等、三組織の皆さんによる「お楽しみ会食会」が続いています。二カ月に一度、九月の敬老会の月を除いて年五回一回に四十人くらいの方が参加されています。

午前十時、ボランティアの車に分乗して集まり、血圧測定や健康相談の後、お風呂を楽しんで昼食。それから、ひろばコーデイネーターの援助で歌・体操・ゲームなど、お茶を飲みながらの話に花が咲き、楽しい時間を過ごします。この他にもいくつかの交流事業を行っています。

的に開催できるのは、ボランティアの皆さんを始め、すべて各組織の協力の協力によって運営されているためです。

しかし、今後とも引き続き開催していくことへの問題点がないこともありません。ただ、この障害を乗り越えて集まることによって、平常から人と人との繋がりを積み重ね、隣組単位での意思疎通が「非常時」に大きく貢献できるものだと言われていますし、そう確信しています。

さらに、今後も町会が全組織を挙げて「緊急時対応策」を考えていこうと思っております。なぜなら、この取り組みこそが「地域福祉」「町会福祉」へのチャレンジだからだと思います。

（町会長 入山進）



お楽しみ会



ふ く し ・ み ゃ り ば ん

### 社会福祉法人合併公告

平成16年11月15日に社会福祉法人松本市社会福祉協議会は、社会福祉法人四賀村社会福祉協議会、社会福祉法人安曇村社会福祉協議会、社会福祉法人奈川村社会福祉協議会、社会福祉法人梓川村社会福祉協議会を合併して存続し、社会福祉法人四賀村社会福祉協議会、社会福祉法人安曇村社会福祉協議会、社会福祉法人奈川村社会福祉協議会、社会福祉法人梓川村社会福祉協議会は解散する旨を理事会及び評議員会において議決しましたので、この合併に対し異議のある債権者は本公告記載の翌日から2ヶ月以内にその旨をお申し出ください。

平成17年1月15日

長野県松本市双葉4番16号  
社会福祉法人 松本市社会福祉協議会  
会長 小原 仁

### 高齢者や障害者が 住みやすい住宅リフォーム 無料相談

- 日 時 3月6日(日)  
午前10時～午後3時
- 会 場 なんなんひろば  
大会議室(芳野4-1)
- 内 容 建築・福祉法律相談他
- 問い合わせ  
松本建設労働組合  
☎32-1734

### ぴあねっと21

### 「5周年記念」&「障害者週間イベント」

- 日 時 1月18日(火) 午前10時～午後4時
- 会 場 Mウィング6階(ホール及びロビー)
- 入場料 無料《手話通訳・要約筆記あり》
- 第1部 狭間壮コンサート 午前10時30分～11時30分  
ランチタイムイベント 正午～午後1時30分
- 第2部 シンポジウム「どうなる?支援費」 午後2時～4時  
シンポジスト・コーディネーターは国・県・市の福祉行政および施設職員や、障害当事者の当センター所長・室長など6名
- ※同時開催イベント 障害者作業所・施設等バザー
- 問い合わせ ぴあねっと21  
(松本市障害者自立支援センター) ☎27-7211

### 第16回 ボランティア交流集会

ボランティアグループやNPO関係者が一堂に集まり、情報交換や交流会を行います。関心のある方は、どなたでも参加いただけます。

- 日 時 2月5日(土) 午後1時～4時
- 場 所 松本市総合社会福祉センター  
4階 大会議室
- 内 容 ・基調講演  
講師 松本市収入役 市川 博美氏  
・活動発表(ボランティア、NPO関係者)
- 申し込み 松本市ボランティアセンター  
(松本市社会福祉協議会 ☎27-3381)

### 在宅介護者の集い参加者募集

ちょっと一息つきませんか。日頃の疲れをリフレッシュ!

- 日 時 1月24日(月)～25日(火) 【1泊2日】
- 場 所 静岡県焼津・御前崎方面
- 内 容 介護者の交流、懇談等
- 参加費 無料
- 対象者 現在、在宅で寝たきり・痴呆性老人等を介護されている方
- 申し込み 松本南在宅介護支援センター ☎25-3895

### 身体障害者福祉協会 会員募集

松本市身体障害者福祉協会では、身体障害者のための事業を計画したり、障害者同士の交流を目的とする活動を行っています。

- 年会費 1,000円
- 主な事業 会報の発行(年2回)、スポーツ大会  
研修旅行、健康教室、生活相談等
- 問い合わせ 協会：飯沼勝浩 ☎58-4269  
事務局：松本市社会福祉協議会  
☎27-3381・FAX27-2239

### 共同募金会より新潟県中越地震のボランティア活動支援のため資金を助成

被災者救援を行う災害ボランティア活動を資金面から支援するため、長野県共同募金会では700万円の資金支援をすることになりました。(関東各都県共同募金会からは総額1億円)

当財源は、赤い羽根共同募金に寄せられた皆さまからの寄付金の一部を「災害準備金」として積み立てています。災害地域において被災された方々の支援・救済活動を行うNPOやボランティアグループ及び民間の災害ボランティアセンター等に対して活動資金を支援する制度です。

#### 《活動資金の制度内容》

- ①被災地での災害ボランティアセンター等ボランティアの活動拠点(運営主体が民間組織)の立ち上げ経費活動費(登録している個々のボランティアへの保険掛金や活動費を含む)等の経費
- ②関東各都県社会福祉協議会等が被災地へボランティアを送迎するためにバスの運行を実施した場合に、バスのチャーター代等の経費
- ③ボランティアグループやNPOが被災地域で行う災害ボランティア活動費や5名以上で構成されるグループで、延べ5日間以上の活動経費(活動を行う被災地域までの交通費・宿泊費などは対象外)
- ④公費補助の対象とならない福祉施設における福祉支援関係経費及び施設整備・設備等の経費



以上の活動資金へ有効に活用されました。皆さまからのご協力ありがとうございました。

「社協まつもと」はみなさんの共同募金の配分金で発行されています。